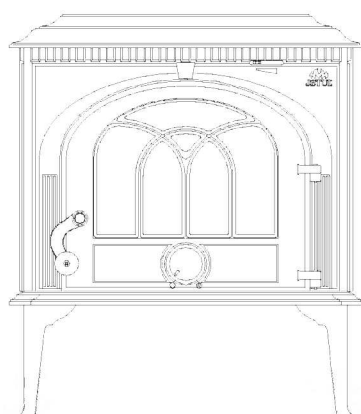


Jøtul F 8 TD

Jøtul F 8 TD

ヨツール機種別取扱説明書



目次

1. 正しく安全にお使いいただくために
2. 製品仕様
3. 各部操作方法
 - ・ フロントドアの開閉
 - ・ クイックベント(焚き付け専用のレバー)の開閉
 - ・ 燃焼調整
4. メンテナンスについて
 - ・ 扉のガスケットの取替え
 - ・ ガラスのお手入れ
 - ・ バーンプレート・バッフルのお手入れ
5. 参考図
6. パーツリスト

1. 正しく安全にお使いいただくために

正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読み下さい。お読みになった後は、いつでも見られる所に保管して下さい。

- ・ 赤いコーションラベルと保証書は大切に保管して下さい。ヨツールクオリティーシステムのサービスやメンテナンスを受ける際にご提示いただく場合があります。
- ・ 本体及び煙突は高温となります。直接手で触れないようにし、扱う際は必ず耐火製のグローブを着用して下さい。
- ・ 正しく使用されない場合、火災事故や火傷や死亡事故につながる場合があります。
- ・ 使用時に薪がはぜる(火の粉が飛ぶ)ことがあります。必ず本体扉を閉めてお使い下さい。
- ・ 安全にお使いいただくために、定期的なメンテナンスを行って下さい。
- ・ ヨツールの製品は、生産物賠償責任制度に加入しています。

2. 製品仕様

製品名	Jøtul F 8 TD (ヨツール F8 TD)
本体寸法	幅 666×奥行 560×高さ 760mm
重量	141kg
定格出力	8.0kW(6,880kcal/h)
最大出力	12.0kW(10,320kcal/h)
薪長	50cm
暖房面積	～172 m ² (52 坪)
適切な薪量	2.4kg/h(定格出力より算定) <T4>
燃焼方式	1 次燃焼方式
煙突径	150mm
煙突方向	上・後
本体カラー	BP(ブラックペイント)
試験データ EN13240	
燃焼効率	75% 7.9kW
推奨ドラフト値	12Pa
CO at 13%O ₂	0.28%

<T4>ヨツール・オーナーズ・トレーニングチェック項目です。薪を入れすぎた状態で使用すると過燃焼になり本体を破損する場合があります。機種により、適切な薪の量が示されています。

3. 各部操作方法

- ・ フロントドアの開閉

フロントドアハンドルを 90 度回転させ扉を開けます。閉めるときは扉を押しながらしっかりと閉めます。(Fig. A)

- ・ クイックベント(焚き付け専用のレバー)

着火後の始動時には、本体正面下部のクイックベントを回転して空気調整をして下さい。炊き始めは、右にレバーを回転させて空気を流入し、投入した薪全体に炎がいきわたったら左にレバーを回転し閉めて下さい。(Fig. B)

<注意>

クイックベントは焚き付け専用レバーです火が勢いよく燃えてきたら、クイックベントは必ず閉めて下さい。

- ・ 燃焼調整レバー

本体正面右上のレバーをスライドして空気の調節をします。右にレバーをスライドさせて開けると高温に、逆に左に閉めると低温になります。(Fig. C)

4.メンテナンスについて

定期的なメンテナンスの際に、消耗品の交換をしましょう。

- ・ 扉のガスケットの取り替え

扉の周囲につけて気密性を保つガスケットは、使用に伴って消耗してきます。扉のガタつきや空気漏れ、ガスケットそのものに「へたり」が見られたら交換時期です。

(Fig. D)

- ① ガスケットをはがして、溝にこびりついている耐火セメントをドライバーやワイヤーブラシで取り除きます。
- ② ガスケット専用の接着剤を溝に薄く塗布します。
- ③ 新しいガスケットを、隙間なく押し込みます。常温で 24 時間以上乾燥させます。

- ・ ガラスのお手入れ

製品にはエアウォッシュシステムが装備されています。本体上部からガラスの内側に沿って空気が流れます。ある程度のススは煙突のドラフトや燃焼レバーの調整具合によってガラスに付着しますが燃焼調整レバーが開いている時や炉内で炎が活発に燃えている時に消散します。通常のクリーニングはペーパータオルをお湯で濡らし灰を加えたものでガラスをこすり水できれいにしその後乾かしてください。落ちにくいススや汚れは、市販のガラスクリーナー等を塗布し、乾いた布等できれいに取り除いて下さい。また、ガラスにヒビや割れ等が生じた場合は、直ちに使用を中止して、新しいものと交換して下さい。

- ・ パーンプレート、バッフルプレートのお手入れ

プレート全体にクレオソート等の汚れが付きますので、気になる場合はワイヤーブラシをかけて汚れを取り除いて下さい。ヒビ割れ、変形が生じた場合は、直ちに使用を中止して新しいものと交換して下さい。そのまま使い続けると、暖炉本体の寿命を縮めます。

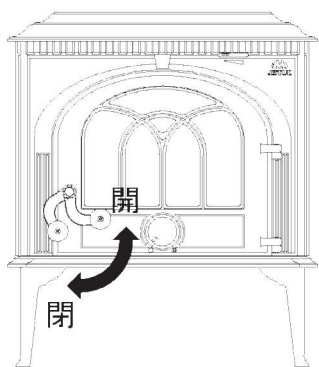


Fig. A

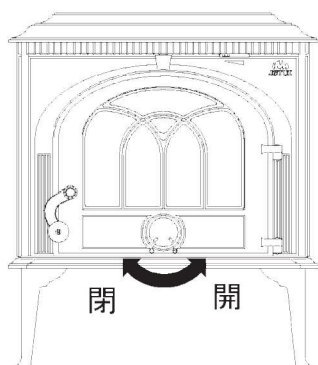


Fig. B

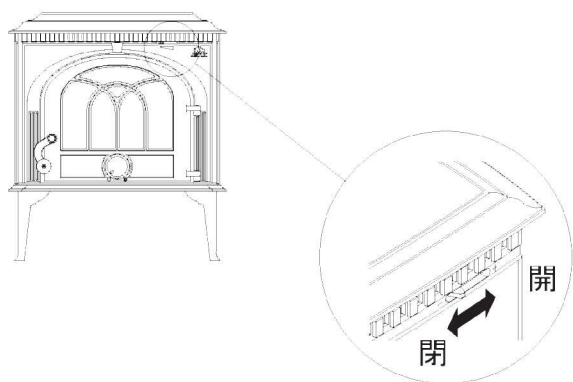


Fig. C

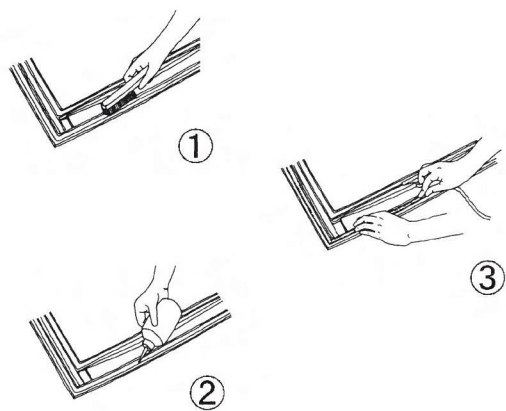


Fig. D

